

ベトナムのリハビリを支援する

－協力隊の活動を通じたその後の活動

国立国際医療研究センター病院リハビリテーション科
西本敦子(作業療法士)

2016年7月23日(土)第2回日本リハビリテーション国際交流協会学術集会

本日の内容

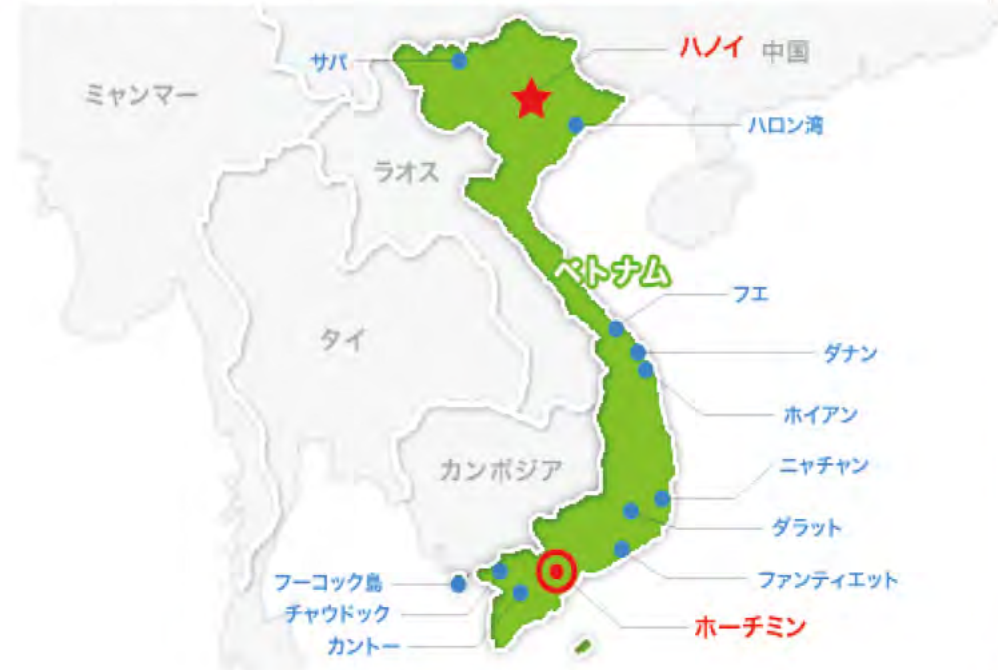
- ◇ ベトナムの人々の生活
- ◇ ベトナムの医療・保健について
- ◇ ベトナムのリハビリ事情（都市部と地方の違い）
- ◇ 協力隊としての現地での活動
- ◇ 帰国してからの活動



INTRODUCTION OF VIETNAM

- 首都 – ハノイ
- 人口 – 8880万人
- 言語 – ベトナム語
- 宗教 – 仏教, キリシト教, カオダイ教...

GDP - 1,168ドル/人



バイク、バイク、バイク、車！！－都市



ベトナムの台所(市場)



ベトナムの主な疾患

主な疾患

	疾患名	件数(10万人)
1	急性咽頭炎	644
2	肺炎	545
3	急性気管支炎	391
4	下痢	343
5	高血圧	327
8	交通外傷	95

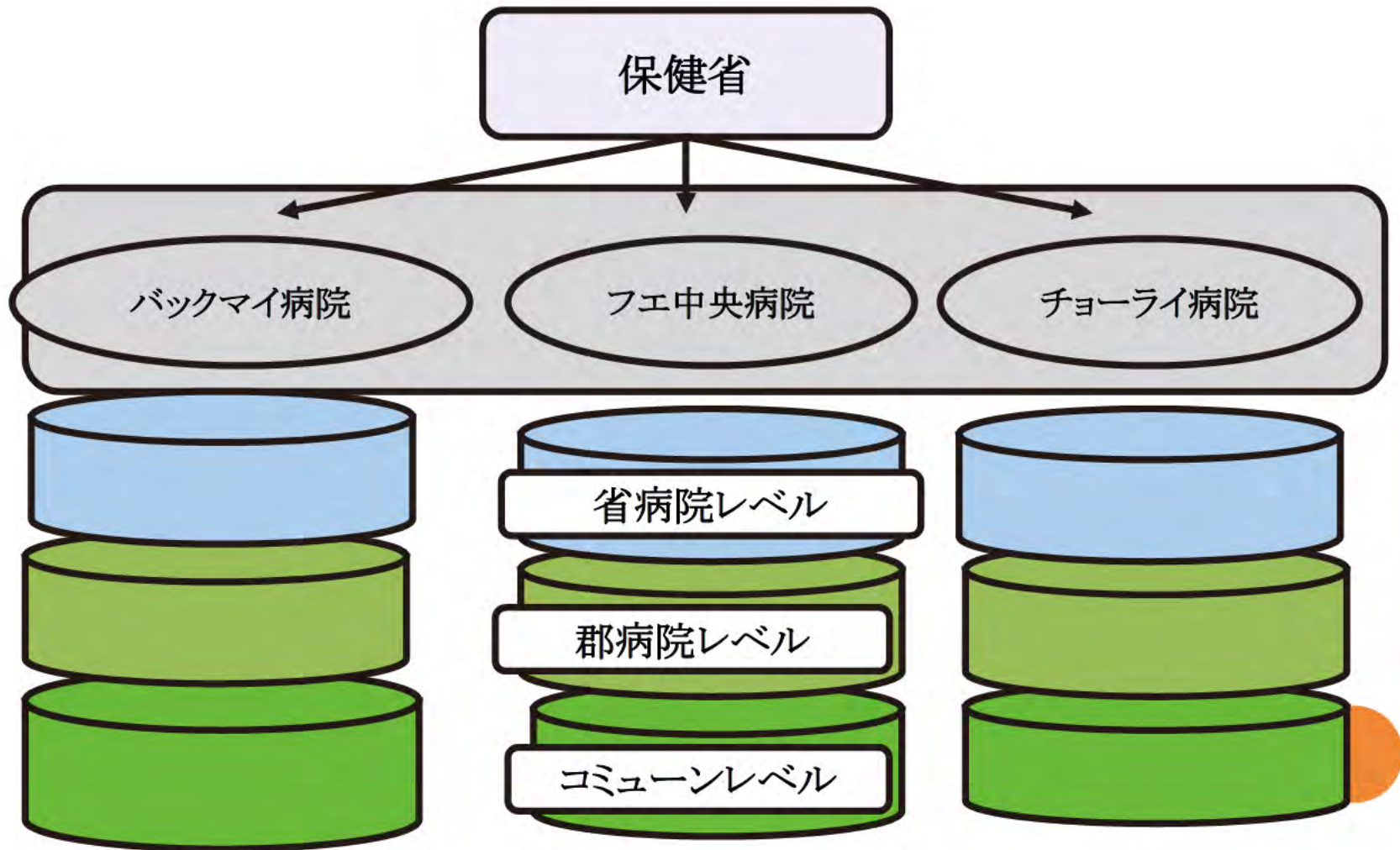
死亡要因

Health statistics yearbook2009

	疾患名	件数(10万人)
1	頭蓋内損傷	2.5
2	HIV	1.79
3	肺炎	1.77
4	脳出血	1.36
5	急性心筋梗塞	1.10
6	交通事故死	1.06

- ・死亡要因1位の頭蓋内損傷は、劣悪な交通事情によるものが多い。
- ・脳出血や心筋梗塞が近年増加傾向。

ベトナムの医療体制



ベトナムの保健問題

地域格差 : 地方では設備や機材・人員の不足

都市は総合病院へ患者が集中、慢性的な病床不足

医療保険: 健康保険の加入率は7割程度(2012年)

治療費が払えずに退院することも

疾病構造の変化: 脳卒中・心筋梗塞など生活習慣病の増加



JICAとベトナムの医療プロジェクト(2010～2015)

プロジェクト	期間	協力期間	概要
保健医療従事者の質の改善プロジェクト	2010.7月～ 2015.7月まで	保健省 3拠点病院	病院管理、研修管理、感染対策、医療安全、トータルケア等の政策について、3拠点病院で人材育成、実施。その後、省病院にて、実施。
母子健康手帳全国展開プロジェクト	2011.1月～ 2014.1月まで	保健省母子 保健局	4省にて母子健康手帳を導入。その評価をもとに、全国標準となる母子健康手帳及びガイドラインを完成させ、全国展開を目指す。
南部地域医療リハビリテーション強化プロジェクト	2010.5月～ 2013.5月まで	保健省 チョーライ 病院	チョーライ病院にて、医療リハビリテーション技術研修、及び指導者研修。また、患者の退院指導、及び必要な情報提供を行う。

CHORAY HOSPITAL (ホーチミン市)



ベッド数: 1,719 台、入院患者数: 2700 - 2800人/日
外来患者数: 987,525人/年、救急外来: 100,391人/年
手術件数 36,746回/年

CHORAYHOSPITAL The symbol of the international cooperation Vietnam – Japan2010



病棟の様子



病棟
6人部屋の病室にベッドが10台も！
廊下のベッドやストレッチャーにも患者さんが



看護師の現状

- ベッド定数より倍以上の患者が入院
- ✓ 看護師だけでなく看護助手の数も少ない
- ✓ 仕事内容は機能別 : 会計・物品運搬・調剤、
看護助手業務も含まれてる。

ベトナム

看護師:患者 = 1:20 ↑

日本

看護師:患者 = 1:7~



ベトナムのリハビリテーション

リハビリ専門職: 理学療法士のみ

2年の専門学校または大学4年で資格取得。(全国で700人ほど)

主なリハビリ(病院): 温熱・電気療法、関節運動、筋力Up訓練

道具を使った手の訓練、平行棒内歩行、ICUで呼吸リハ、鍼灸など

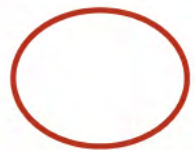
リハビリテーション費用(1回/1日)

理学療法: 50円 作業療法: 60円

障害者法(2011年より施行) 障害者の権利, 義務が明確化

- 教育や就労支援,
- CBR(地域に根ざしたリハビリテーション)の推進
- 住居や公共サービスの改善

CHORAY HOSPITALのリハビリ室



日本の政府開発援助(ODA)
やプロジェクトの支援で購入



リハビリの様子



家族が毎回リハビリに付き添う様子も

ストレッチ性の布で足関節固定、プラスチック装具の代わり



地方の病院、リハビリテーション



閑散とした病院内



訓練室



リハビリの様子

自主訓練(家族が見守りながら)



自主訓練



JICAの要請

- 1) 現地の患者さんへリハビリテーション
- 2) スタッフにリハビリの知識や技術の指導

私の活動目標

- ・現地の患者さんに少しでもよくなってもらう
- ・スタッフとこれまで学んだリハビリ知識・技術を確認し、更にその技術を高めることを支援

活動の様子

作業療法室



はじめは、作業療法の技術指導だけではなく道具の作成、使用方法や対象に紹介



家屋訪問



起き上がりの介助指導



車椅子の良い姿勢

帰国時に感じた国際協力

患者さんをもっと
よくしたい

患者さんのADLのことを
考える、生活へつなげる
リハビリが大切なことが
わかった。

患者さんへの作業療法が
おもしろかった

一緒に働いた理学療法士から

- ☆ ベトナムの患者さんに作業療法を行なって喜んでもらった、
- ☆ 現地のスタッフに作業療法の楽しさが伝えられた、求めていたこと少しは応えられた
- ☆ 作業療法(持っている技術)を通してコミュニケーションが図れた
- ☆ ベトナム・日本の文化交流が図れた

やり残したこと

☆ リハビリの普及活動

1) 地方の病院のリハビリスタッフとの交流

2) 一般のベトナム人に新聞やテレビなどでメディアを使って伝える
・家でできるリハビリや健康体操など

☆ 英語、ベトナム語の習得



帰国後の活動

- 就職: 医学部リハビリテーション科、研究員
- 大学院に進学: 脳科学の研究に関心、医科学修士を修得
- 国際保健学会(2012)でベトナムの活動報告
- JOCVリハビリテーションネットワークに参加
 - ①福島へ震災後の支援活動
 - ②イベントを通して、協力隊志望のセラピストの相談

ベトナムや途上国に関わる活動はほとんどない



ベトナムの医療、リハビリを支援する

◇ ベトナムの介護人材育成のプロジェクトに参加

- ベトナムからの**EPA**看護師、介護士候補生の受け入れが開始
(2014年)
- 大阪の医療法人がベトナム人介護士研修生の受け入れ決定
- 日本のスタッフ、ベトナム候補生に向けた教育プロジェクトスタート

◇ 院内ベトナムの医療改善プロジェクト

- ハノイの病院からセラピスト、医師団の当科の視察受け入れ
- ベトナムで活動した経験から、架け橋に
- ベトナムの国柄、生活、そしてリハビリをスタッフに伝達
- 視察の際、ベトナムスタッフと当スタッフが友好的な関係を築く